

令和7年度横浜市民まち普請事業 第115回部会 会議録	
日時	令和7年7月13日（日）10:15～16:40
開催場所	横浜市役所アトリウム
出席者 【敬称略】	部会委員）川原部会長、植松委員、小川委員、國廣委員、後藤委員、鳥海委員、肥後委員、松村委員 事務局）横浜市：古檜山、中尾、安藤、今村、三浦、市川 市民セクターよこはま：加世田、山田 横浜市住宅供給公社：岡部、鈴木、土屋、高橋
開催形態	公開（YouTubeでのLIVE配信含む）
議題	令和7年度横浜市民まち普請事業1次コンテスト 1 開会 2 整備提案の発表 3 審査員による提案発表を踏まえたポイント整理 4 審査方法の説明 5 公開議論・質疑 6 公開投票及び結果発表 7 講評
決定事項	2次コンテスト対象提案として以下の提案を選考 【整備提案名】＜提案グループ名＞ 1 【誰でも安心して歩ける鶴見西口のまちしるべ】 ＜鶴見西口活性化委員会＞（鶴見区） 2 【関内桜通り「としょかん」＆「こうみんかん」の整備】 ＜桜通りをたのしくする会＞（中区） 3 【横浜古民家活用「緑の家」プロジェクト】 ＜リエトモ倶楽部＞（神奈川区） 4 【横浜西口水辺空間の植栽整備】 ＜横浜駅西口トリコロールリバーズ＞（西区） 5 【希望が丘チャレンジベース ～まちのコンシェルジュ～】 ＜共感と挑戦が巡るまちの未来デザインチーム＞（旭区）
審査基準	1 創意工夫 ・住民等が持つ発想、方法などを生かしたアイデア、ユニークさ 2 意欲 ・自ら主体となって整備の推進に取り組む意欲 ・グループメンバーが目的を共有したうえで、持てる力を出し合い、提案の精度を高める活動に取り組む意欲 3 公共性 ・地域の課題やニーズの的確な把握、地域への貢献度 ・活動を地域に開きながら、広げる又は深める姿勢

選考結果	
選考団体（委員講評順）	委員講評
【提案名】 誰でも安心して歩ける鶴見西口のまちしるべ 【提案グループ名】 鶴見西口活性化委員会 【投票審査員数】 8 人 【得票数】 11 票	・今ある掲示板の場所だけにとらわれず「壁や家なども活用していくとのことだったので」本当に必要な場所にたどり着けるような工夫を2次ではみせていただきたい。 ・看板にこだわりすぎず、ベンチやアートなど、課題や目標を達成するための手段は他にも色々あると思う。地域の方々と対話を重ね、最も効果的な形を検討してほしい。 ・掲示板は紙が張り替えられることで動いていると実感できる点に意味がある。QRコードの活用も良いが、アナログな紙による掲示や、その場で視覚的に表現されることの意味を、もっと追求していただきたい。
【提案名】 関内桜通り「としょかん」&「こうみんかん」の整備 【提案グループ名】 桜通りをたのしくする会 【投票審査員数】 8 人 【投票数】 16 票	・体制が整っており、すぐに事業に取り組める状況にある点が良かった。横浜市の、楽しくまちづくりに取り組める環境を活かし、より良い方向へステップアップしてほしい。 ・皆さんは住民でありながら仕掛ける側として活動している印象がある。地域の方々を巻き込むとは、単に参加してもらうだけではなく、一緒に取り組むことが重要。現段階でも内容がある程度作り込まれているが、丁寧に参加の余地をつくることで、予想外の展開が生まれ、より面白くなると思う。
【提案名】 横浜古民家活用「緑の家」プロジェクト 【提案グループ名】 リエトモ倶楽部 【投票審査員数】 5 人 【投票数】 6 票	・地域の方々が持っているつながりを活用することで、思いがけない人の参加につながることもある。現在活動している人々も大切だが、それを広げ、つないでいく視点がさらに重要になる。ぜひその視点を持ちながら、取り組んでいただきたい。 ・代表一人で抱えてしまうのは負担が大きく、仲間の存在が重要。仮にコンテストを通ったとしても、支える仲間はいくら必要で、地域にはまだ見えていないだけで、そうした人がたくさんいるはず。ヒントも多くあると思うので、ぜひ仲間を見つけながら、2次コンテストに向けて頑張ってください。
【提案名】 横浜西口水辺空間の植栽整備 【提案グループ名】 横浜駅西口トリコロールリバー 【投票審査員数】 7 人 【投票数】 9 票	・「緑を活かしたまちづくり」が防犯目的だけではもったいないと感じた。植物を通じ、新しい都市の生態系を育てたり、人と人とのつながりを生む可能性もある。単に景観美化にとどまらず、まちづくりに深く関わる視点を、ぜひ2次コンテストに向けてブラッシュアップしていただきたい。 ・2次コンテストに向けて、多くの方の声を聞きながら試行錯誤するプロセスを大切にしてほしい。提案場所は難しいエリアにあり、ちょっとした工夫だけでは大きな変化は難しく、都市デザインの専門家からの助言を得るのも有効だと思う。 ・提案場所に新たな価値を生み出すには、魅力を伝える「スト

	ーリー」と場所の改善が必要。そのためには専門家の力を借りることが近道であり、今後専門家を迎えてほしい。また、イベント経験が豊富な皆さんだからこそ、現地で試験的にイベントを実施し、反応を見ながら提案をブラッシュアップすることも可能だと思う。ぜひトライしてほしい。
【提案名】 希望が丘チャレンジベース ～まちのコンシェルジュ～ 【提案グループ名】 共感と挑戦が巡るまちの未来デザインチーム 【投票審査員数】 8 人 【投票数】 14 票	・企業の支援を受けながら、学生の力で提案を形にされたことは素晴らしく、貴重な経験になると思う。今後は地域の方々と対話し、肌感覚でこの場所に本当に必要なものを見極めてほしい。今回の提案は核となる部分が見えづらい印象もあるので、実体験をもとにプランを練り上げることが重要。より良いまちにするために、地域の商店街との連携など、様々な知恵を絞って取り組んでいただきたい。 ・学生・事業者・地域の三者が良好な関係を築き、モデルづくりに取り組まれている印象を受けた。各々の目的に応じて地域と関わる形は、ポジティブに評価されるべきだと思う。内容はこれから具体化される段階かと思うが、今後どのような化学反応が起こり、半年後にどんな変化が見られるのか、楽しみにしている。
資料 (資料 1) 令和 7 年度ヨコハマ市民まち普請事業 1 次コンテスト整備提案集	